

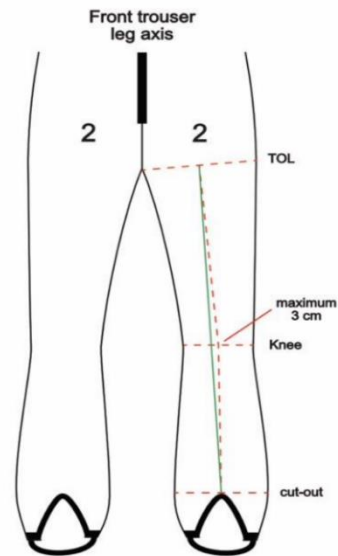
スキージャンプスーツのルール変更について

オリンピック（25-26）シーズン

◆スーツ構造

■脚の形状

- ・ジャンプスーツの脚は、軸に沿って真っすぐでなければいけない。
- ・脚軸の許容範囲は、膝の高さで±3 cm。



■男子用スーツ

- セットイン袖

- ・袖の縫い目は手口から始まり、**尺骨の端より下に位置してはいけない**（glove and hand picture 参考）。
- ・袖の縫い目の終端はアームホールと交差し、袖の縫い目の最高点（illustration1 参考）かつアームホールとの最下点（illustration2 参考）になければならない。
- ・袖の縫い目は脇の下で脇線と接していなければならない。
- ・アームホールの縫い目は肩の上を通らなければならない（illustration3 参考）。
- ・アームホールの縫い目は **45 度**に開いた腕の外側のラインの延長線上に触れてはいけない。
- ・袖を手袋や体に固定してはいけない。

Illustration 1

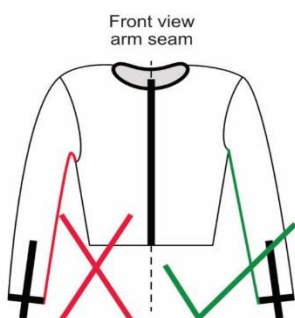


Illustration 2

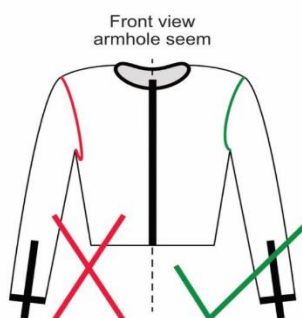
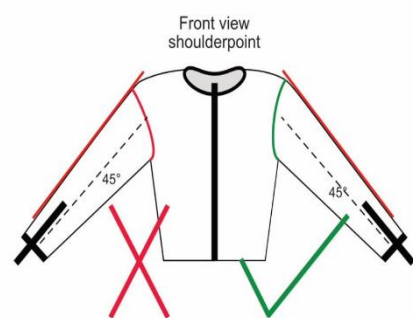
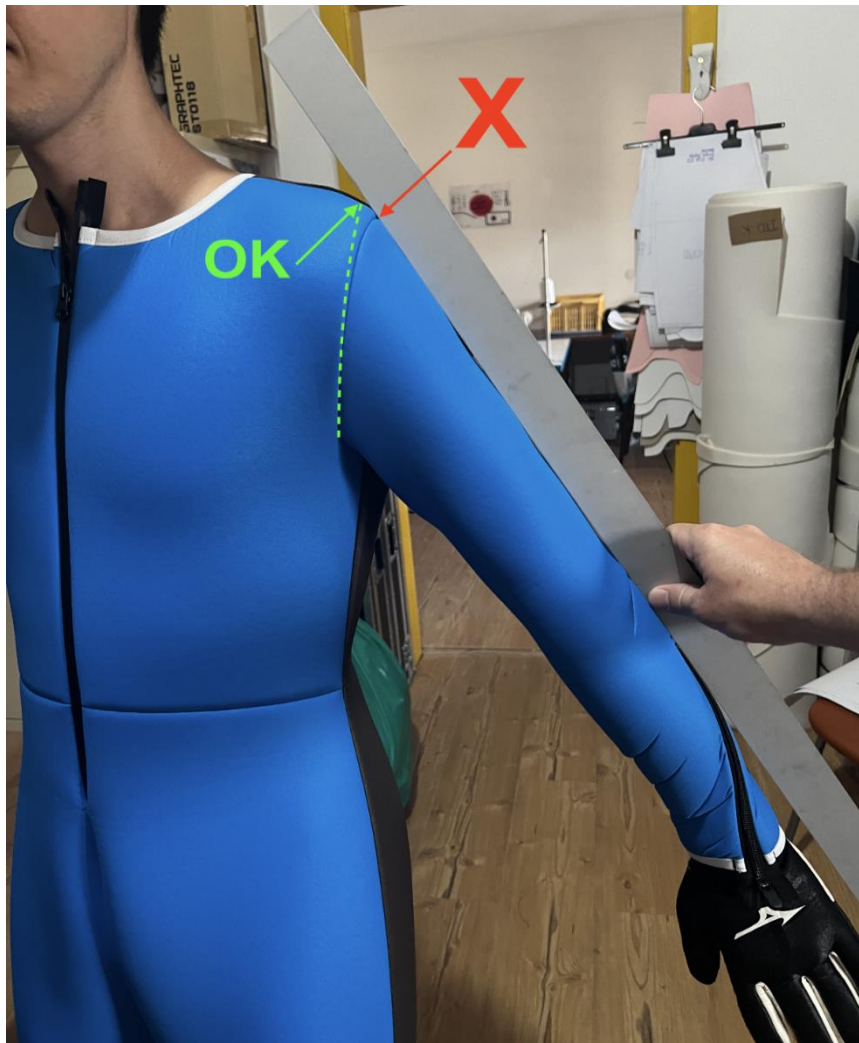


Illustration 3





Glove and hand picture

■女性用スーツ

- ラグラン袖

・男性用スーツと同様（illustration4 & 5 参考）

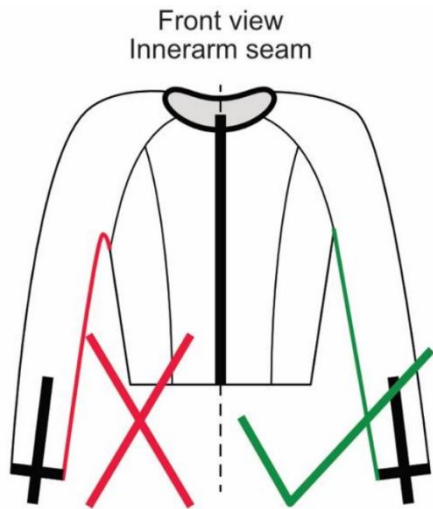


Illustration 4

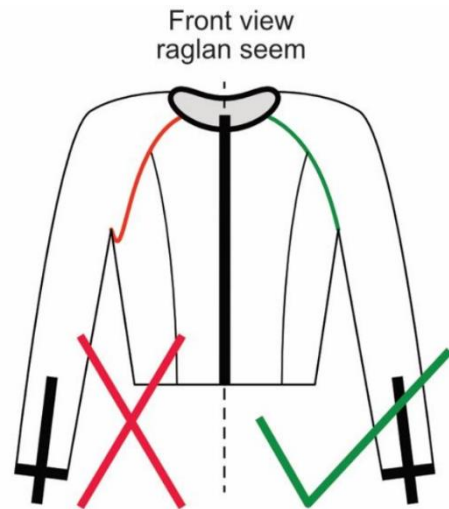
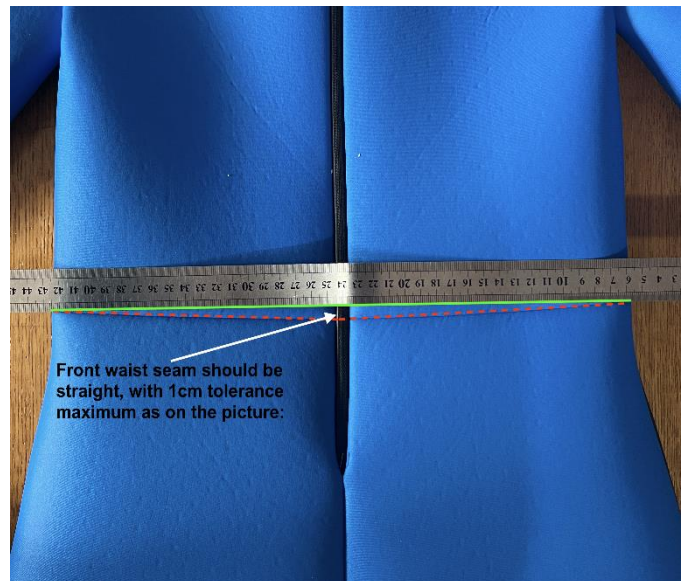


Illustration 5

■ウエストシーム

- ・ウエストシームは身体の周囲を水平に通る、腰骨の高さ（上下に±5cm）に位置しなければならない。
- ・後ろ身と前身の中心の高さの差は 5cm を超えてはいけない。
- ・前身の縫い目は直線であらなければならない。



■裾とレッグホール

- ・脚の裾、腕の裾、襟は同一の物理的特性をもつバンドで縁取られなければならない。
- ・裾のバンドによって生地には折り目やシワが形成されてはいけない（下図参考）。
- ・各バンドの幅は、1.5cm を超えてはならない。
- ・前身のレッグホールはシューズのストラップまたはバックルの後ろに位置しなければならない
- ・レッグストラップは脚の軸に対して 90 度の角度で取り付けなければならない。
- ・脚の裾の外側は常に内側よりも長くなければならない

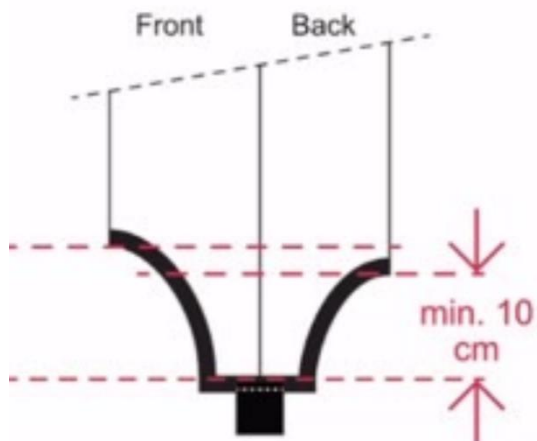
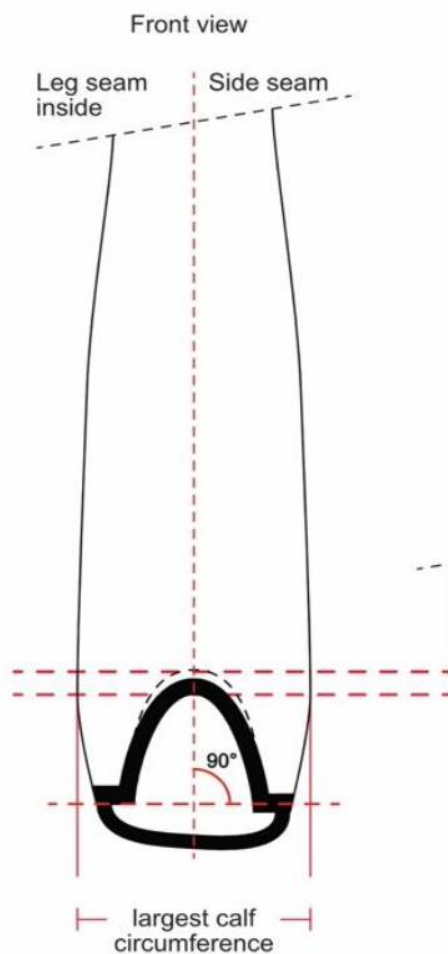
- レッグストラップの幅は 2～4cm、厚さは最大 2mm でなければならない。
- 後ろのレッグホールの高さは最低でも 10cm でなければならない。
- ふくらはぎの周囲は前身のレッグホールの頂点の高さで最大でなければならない。

Boots opening 2024 2025 NOT ALLOWED



Boot opening 2025 2026

This blue suit is still good enough...
Elastic must be sewn without any fold
on the suit fabric.



■ラベル

・スーツには下記の内容を記載したラベルを取り付けなければならない。

1,選手名

2,国名

・ラベルはスーツの後ろ身の首に近い部分に取り付けなければならない。

・ラベルは襟に縫い付けても良い。

・ラベルはプリントまたは防水性のインクを使用したペンでの手書きで代替しても良い。

・ラベルの最大サイズは 16 cm²。



■袖の長さ

・袖の長さは登録値から-3cm よりも短くてはいけない（登録値が 50cm の場合、スーツは 47cm 以上）

・測定は金属製メジャーで行う

・測定は袖の端から脇十字までを測る。その際袖を持ってスーツを吊るして測定する。

■脚の長さ

・男子：登録値 + 1cm 以上（登録値が 80cm の場合、スーツは 81cm 以上）

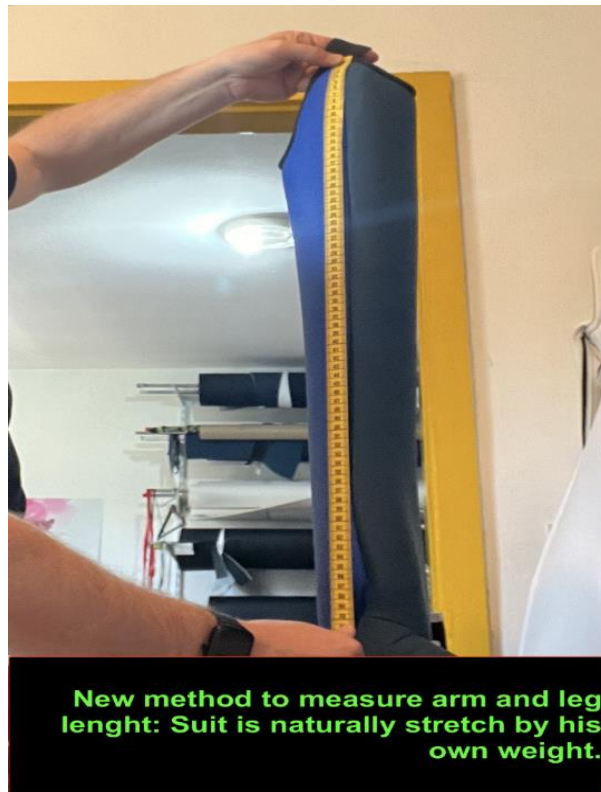
・女子：登録値 + 1cm 以上（登録値が 80cm の場合、スーツは 81cm 以上）

・測定は金属製メジャーで行う。

・測定は脚の裾から股十字までを直線で測る。その際裾を持ち、スーツを吊って測定する。

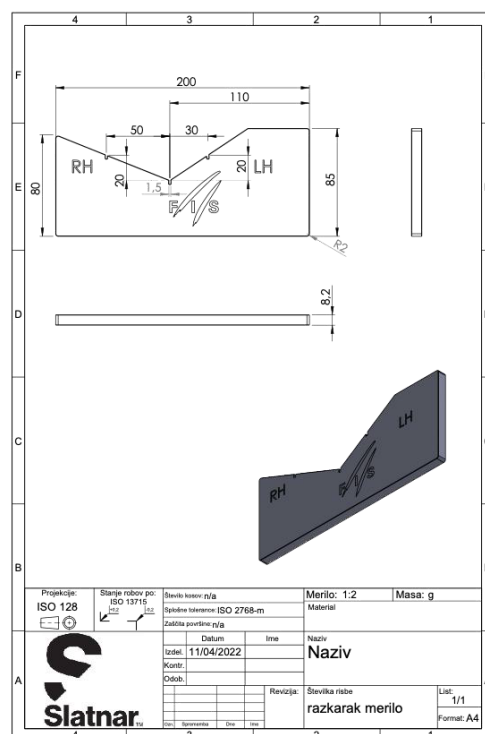
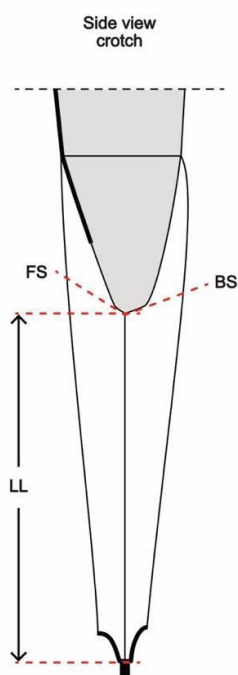
■袖ジッパー

・ジッパーは肘の手前で終わらなければならない。



■ 股下検査

- ・男子：登録値の+3cmを下回ってはいけない（登録値 80cm の場合、83cm 以上）
- ・女子：登録値を下回ってはいけない（登録 80cm の場合、80cm 以上）
- ・測定中ブーツの後部が測定機器に接していなければならない。また測定機器のホイールの上にブーツの底面を接するように立たなければいけない
- ・股下テンプレートは、内股の縫い目に対して 90 度の角度で配置し、テンプレートの角度の最も深い点は股の交点になければならない。



■ 許容範囲とメジャーメント

- ・選手の身体の任意の個所を対応するスーツの個所と比較する。
- ・測定個所を決定する基準点は胴体の場合はウエストシーム、脚の場合は腰骨とする。
- ・膝から足首までの寸法については、許容範囲を身体の+2cm～10cmとする
- ・選手がバックプロテクターを着用している場合、着用した状態で測定する。

■ 空気透過量

- ・スポンサーロゴは測定の対象外とする
- ・40L/m²/sec 以下の測定値が出た場合、以下の手順で測定する
 - 1,ランダムに選ばれた 6 か所を測定する
 - 2,最高値と最低値を除いた 4 か所の測定値の平均値を採用する（小数点第一位まで有効）
 - 3,平均値に対して 3L/m²/sec を加算し、最終的な測定値とする
 - 4,最終の測定値が 40L/m²/sec を超えていなければ失格

■ 前後のサイズ差について

- ・スーツの前身と後ろ身のサイズは以下の例外を除いて同じでなければならない。

例外 1) 股十字の部分において、後ろ身は前身よりも最大 4cm 大きくても良い。そこからウエストシームと膝に向かって許容値はゼロになる。

例外 2) 女性のスーツの胸の最も高い部分において、前身は後ろ身よりも最大 5cm 大きくても良い。そこからウエストシームにかけて許容値はゼロになる

■ 縫い目

- ・股上の縫い目、股下の縫い目および脚（ブーツ）先 15 cmについては二重縫いしても良い。
- ・縫いしろは 1 cmを超えてはならず、縫い代同士をつなげてはならない。

■ スーツマーキング

- ・オリンピック、世界選手権、フライング世界選手権、ワールドカップ、サマーグランプリで使用される全てのスーツは大会前に FIS 指定のシステムでマーキングする必要がある。
- ・コントローラーによって認証されたスーツのみがマーキングされる
- ・スーツの内側に男子の場合は 5 か所、女子の場合は 3 か所、NFC チップが熱圧着で取り付けられる。
- ・マークされたスーツのデータ（選手名とスーツ番号）は指定された FIS データベースに登録される。
- ・各選手はシーズンごとに登録および使用できるスーツの数に制限がある
- ・夏シーズンで使用したスーツは冬も使用できる。

■技術承認

- ・オリンピック、世界選手権、フライング世界選手権、ワールドカップ、サマーグランプリで使用される全てのスーツは技術承認を得る必要がある。
- ・技術承認取得後に FIS コントローラーによるマーキングを行う。
- ・選手は常にコントローラーの指示に従わなければならない
- ・コントローラーは全ての S.C.E 規則を確認する権限を有する
- ・以下測定を実施する必要がある。

スーツのみの測定

- 1,袖丈長
- 2,股下長
- 3,股下テンプレート
- 4,肩幅
- 5,裾

選手がスーツを着用しての測定

- 1,股下長
- 2,肩幅

規則に沿っていない場合、立会人が測定をする必要がある。

◆スーツの着数制限

■スキージャンプ

4.5.1 Suit allocation periods 2025/2026 Ski Jumping Men

Sommer Grand Prix	2 Suits
Lillehammer, Falun, Ruka, Wisla, Lake Placid	2 Suits
Engelberg, Oberstdorf, Ga-Partenkirchen, Innsbruck, Bischofshofen, Zakopane, Sapporo	1 Suit
SF WSC Oberstdorf, Willingen	1 Suit
Olympic Games	2 Suits
Kulm, Lahti, Oslo, Vikersund, Planica	1 Suit

4.5.2 Suit allocation periods 2025/2026 Ski Jumping Women

Sommer Grand Prix	2 Suits
Lillehammer, Falun, Ruka, Wisla, Lake Placid	2 Suits
Engelberg, Ga-Partenkirchen, Oberstdorf, Villach, Ljubno,	1 Suit
Zhangjiakou, Zao, Sapporo, Willingen	1 Suit
Olympic Games	2 Suits
Hinzenback, Lahti, Oslo, Vikersund, Planica	1 Suit

- ・ワールドカップおよびサマーグランプリでは 1 試合日につき 1 着、1 イベントにつき 2 着の使用が許可される。
(イベント＝競技会場)
- ・オリンピック、世界選手権、世界フライング選手権では 1 試合日につき 1 着、期間中に 2 着の使用が許可される。

・公式ジャンプ（公式練習、試技、予選、試合）中にスーツが破損した場合、コントローラーの承認を受けた後に破損した部分を交換することができる。その場合コントローラーに遅滞なく報告し、FIS データベースに記録する必要がある。

・上記プロセスは全チームに通知される。

・特定の状況においてコントローラーは 1 試合日に 2 着目のスーツ使用を許可する権利を有する（降雨や降雪の場合）。

・スーツのマーキング検査はジャンプの前または後に実施される。

・マーキングされたスーツへ操作（袖や脚の長さの変更、スーツのカットなど）がされた場合、コントローラーはチップを無効化し、スーツの使用または交換はできない。

・意図的な不正操作は失格に繋がるだけでなく、FIS による更なる措置や罰則が科される可能性がある。

・暫定的な資格停止処分が科される可能性があり、FIS 競技不正操作防止規定に基づき更なる調査や制裁が科される可能性がある。

■ ノルディックコンバインド

4.5.3 Suit allocation periods 2025/2026 Nordic Combine Men

Sommer Grand Prix	1 Suit
WC Ruka / COC Ruka	1 Suit
WC Oberhof / COC Eisenerz	1 Suit
Olympic Games (only one will be chipped)	2 (1) Suits
WC Kulm Lahti (only Athletes are not in OWG) / JWSC Trondhiem	1 Suit

4.5.4 Suit allocation periods 2025/2026 Nordic Combine Women

Sommer Grand Prix	1 Suit
WC Trondheim / Lillehamer	1 Suit
WC Seefeld / COC Schonach	1 Suit
WC Lahti / JWSC Trondheim	1 Suit

・オリンピック、世界選手権につき 1 着使用が許可される。

・ワールドカップ、サマーグランプリ、コンチネンタルカップのイベントごとに 1 着の使用が許可される。（イベント＝競技会場）

■ その他のイベント

・コンチネンタルカップ、インターコンチネンタルカップ、ジュニア世界選手権で使用される全てのスーツは手作業でマーキングされます。

・公式ジャンプ（公式練習、試技、予選、試合）中にスーツが破損した場合、コントローラーの承認を受けた後に破損した部分を交換することができます。その場合コントローラーに遅滞なく報告する必要があります。

・特定の状況においてコントローラーは 1 試合日に 2 着目のスーツ使用を許可する権利を有します（降雨や降雪の場合）。

◆ボディーメジャーメント

■定義と一般規則

・25-26 オリンピックシーズンにおける測定

- 1,身長
- 2,股下長
- 3,袖下長
- 4,足のサイズ

- ・3D スキャンを受けた選手はマニュアルメジャーメントを受けられない。
- ・20 歳までの選手は毎年再測定を受けなければならない。ただしより長い（高い）数値のみが採用される。
- ・測定値は**即時有効となるジュニア世界選手権を除き**、次回の大会から有効。
- ・再測定の際は全ての項目を再測定しなければならない。
- ・選手は常にコントローラーの指示に従わなければならない。
- ・**コントローラーの指示に従わない場合は罰則が科される。**
- ・**シーズンカレンダー内で 2 度測定することは認められない。ただし測定に不備があった場合コントローラーは再測定を要求する権利を有する。**

■ボディースキャン

・3D ボディースキャンは Scaneca 製スキャナーを用いて実施され以下の項目を測定します。

- 1,身長
 - 2,股下長
- ・ボディースキャン手順

- 1、**スキャン前に、本人確認を行い、同意書に署名する。**
- 2,選手は FIS が提供する下着を着用する
- 3,**長い髪は、耳が見えるように束ねる**
- 4,医師が股間周辺と頭部に異常が無いかを確認する
- 5,測定を有利にするために選手が身体を操作する行為は、いかなる試みも固く禁じられる。
- 6,選手はコントローラーと医師の指示に従わなければならない

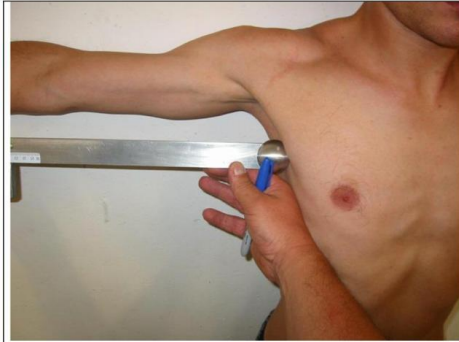
■測定姿勢

- ・足は 30cm 離して立つ
- ・直立姿勢（頭、肩、腰、膝、足首が一直線上）でなければならない
- ・脚は伸ばした状態にする。
- ・腕は完全に伸ばし、指定された支柱を握る。
- ・膝の角度が **172 度（ソフトウェア上では 8 度）** を超えてはならない。

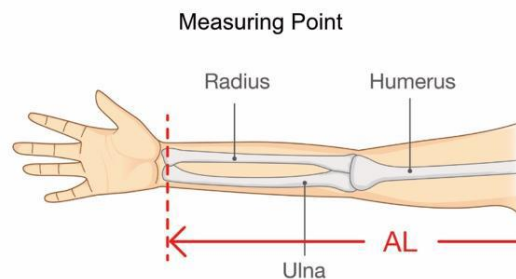
■袖下の測定

- ・立った状態で両腕を水平に伸ばす。
- ・胸筋と胸郭の間の点から尺骨までを測定する。（Picture#1 & #2 参考）
- ・両腕の長さを測定し、短い方を採用する

Picture #1



Picture #2



■身長と股下の手動計測

- ・オリンピック、世界選手権、フライング世界選手権、ワールドカップ、サマーグランプリ、ジュニア世界選手権では手動計測は適用されない。
- ・選手の身長と股下長はレーザーツールで測定される（測定方法は変更なし）。

■体重測定

- ・体重測定は選手個人の下着を着用して行う。
- ・ヘルメット、ゴーグル、手袋、スキー板、ブーツ、ウェッジ、スーツ、ビブを除いた体重

■手袋

- ・手袋のサイズは手のサイズと一致している必要がある。
- ・厚さは **7mm** を超えてはいけない。
- ・スーツと手袋が重なる部分は **7cm** 超えてはいけない

■その他

2025/7/2 時点の最新ルール（今後冬にむけてルール変更の可能性あり）。

※最新ルールは常に FIS のホームページをチェックすること。